

担任の話を聞いて感じたこと ～2歳児SHOWTIME始まりました～

各クラス毎の発表会SHOWTIMEが始まりました。子どもたちとの日常の中で、担任保育者がいかに丁寧に子どもたちに関わろうとしているのかが改めて伝わり、かつ、子ども一人ひとりの育ちを保護者の方と共に喜びあえる半日になったように思います。

その中で、担任からこの一年間を振り返って話をするタイミングがありました。その内容がとっても素敵だったと感じ、その時に思った副園長としての保育への想いを紹介させていただきます。



2歳児クラスの子どもたち。一人ひとりの育とうとしている箇所がさまざまで、0歳から入園している子どももいれば1歳から2歳からと、各家庭さまざまなタイミングで集団での生活をスタートさせています。そのため、保育者も何かを一斉に！という時間よりも、一人ひとりの楽しい遊びは何か、安心できる場所や人を探りながら日々の生活を過ごしています。その過程で起こるおもちゃの取り合いやそこで起こる子ども同士のいざこざ。そんな場面でどのように担任に関わろうとしているのかという話がありました。

Bブロックというおもちゃ、大きなシート型のブロックが人気でした。数が足りないというよりも、無限に使いたくて仕方のない子どもたち。その時は子どもたちの様子を観察し「ひとり2枚までにしようよ！」という話になったそうです。

ひとり2枚までとなったことで子ども自身もただひたすらに重ねるだけでなく、どうやったら高く詰めるか？出来上がったBブロックの車が上手く前に進むか？など工夫するきっかけにもなったように思います。そんな中、子ども同士のやり取りで友達の使っているおもちゃが欲しくなって取ってしまうというよくあるハプニング。

取って気まずそうにしている子に対して取られた子が

「それは僕が今使っているから、使い終わったら貸してあげるね！」

と、言葉にしたようです。その出来事に担任は

「これ、私も真似しなきゃ！」

「こんな言葉がクラスに広がってってくれと嬉しいな」と思っているという話でした。



私はその話を聞いて「自分自身が満たされることでしか人に分け与えること」ってできないよなと思ったと同時に「貸してあげるね」と、話した子はその時しっかりと満たされていたんだろうな、もしくは、「貸しても大丈夫」と安心感を持って日々生活を送ることができているんだろうな。と感じ、そんな「満たされる」「安心感を感じる」状態で生活できていることって凄いことだなと感じました。

一人ひとりが「私は満たされている」と、感じるポイントが違う中でみんなが満たされるって、どんなに大変なことだろう・・・と想像し、それでもそうありたい！と考え、日々過ごす担任の保育者。

子どもの姿や言葉だけでなく、表情や行動から心情を丁寧に読み解き心の動きを受け止め、一緒に考える。こんなにも複雑で難解な仕事に、前向きに面白がりながら子どもと関わる担任保育者を改めて頼もしく感じました。